

武漢市週間記事報告第3号 < 2007.5.8 - 5.31 >

2007年5月8日付け『楚天都市報』より
数字から分析するゴールデンウィーク

今年は中国がゴールデンウィークを提唱して20周年を迎える。

5月の連休期間中、旅行で湖北省を訪れた人は854.47万人、観光による総合収入は22.91億元で、昨年同期と比較すると、それぞれ39.53%、22.32%の増加となり、史上最高の水準であった。

省内の有名観光地を訪れた人は、武漢東湖風景区51.88万人(同期比266.13%増)、武当山8.66万人(同期比20.61%増)、三峡ダム7.92万人(同期比10.92%増)にのぼった。神農架自然林は道路工事の影響により、昨年並の4.12万人であった。

武漢市内では、漢陽、漢口両地の沿江公園には210万人の観光客が訪れ、花の展示会が行われていた解放公園にも33.6万人が訪れた。

市内バス利用者数：2500万人

武漢三鎮の公共バス利用者数は2500万人に達し、最高記録となった。観光地行き、長江渡りのバスは連日超満員で、1日も休まず運航した。

披露宴：5万卓

連休の7日間に武漢市内の大型・中型飲食店80か所で行われた結婚披露宴は約5万卓。連休期間中の飲食魚区の営業収入は4.1億元に達し、同期比17.1%の伸びとなった。

グリーンツーリズム：30万人

30数万人の武漢市民が武漢市の郊外区域にて「農業体験型レジャー」を行い、これに伴う収入は3500万元であった。

天然ガス消費量：350万³m

外出者数の増加による連休中の天然ガス消費量は350万³m、昨年同期比の100³mをはるかに上回り、史上最高となった。

交通機関利用者数：252万人。武漢市の鉄道、船舶、高速道路、航空機など各種交通手段を利用した人の数は252.88万人と昨年並。ただし鉄道、航空機を利用した人の数は同時期と比較すると増加傾向にあり、鉄道利用者数は53.73万人、航空機利用者数は8.27万人に達した。

2007年5月10日付け『武漢晩報』より
武漢市民が選ぶ観光地ベスト10

武漢市内には約170か所の観光地があり、その中でも良く市民に知られている場所は60数か所ある。先日中南社会調査研究所は、武漢中心区域の市民1365名に対し「武漢市民から見た武漢を代表する観光地10選」に関するアンケートを行い、結果を公表した。

調査結果によると、魅力的だと思われる観光地10か所は、荘江公沿江公園（バンド）87.5%、黄鶴楼76.3%、東湖風景区62.1%、武漢植物園61.5%、中山公園59.5%、洪山広場59.2%、解放公園54.7%、帰元禅寺49.1%、木蘭天池風景区48.1%、武漢動物園42.9%となった。

また良く訪れる観光地（05.06年に回答者本人が訪れたところ）は、沿江公園（バンド）80.3%、中山公園62.9%、洪山広場50.3%、解放公園50.2%、東湖風景区38.5%、竜王廟（長江と漢水の合流地）33.5%、黄鶴楼32.3%、帰元禅寺31.9%、武漢動物園30.8%、古琴台27.3%であった。

2007年5月14日付け『楚天都市報』より
湖北省の月給平均額：800元 1000元

湖北省人材センターは第1四半期の湖北省内求人部門の報酬状況調査を行い、その結果、平均月給が800 - 1000元であることが判明した。

調査によると、経済が比較的発展している地域では、平均報酬額が1000 - 1200元/月、経済が遅れている地域では、平均報酬額が680元/月である。一般労働者の報酬はほぼ一致しており、600元前後であるが、技術及び監理ポストの報酬が比較的高くなっている。

2007年5月15日付け『楚天都市報』より
昨年度飲食店の消費：177億元

武漢市統計局の情報によると、2006年度武漢市飲食業の小売総額が177.13億元に達し、上海、北京、天津、成都、深圳、重慶に次ぎ、全国8位となった。07年度の前4ヵ月間、飲食業の小売総額が62.45億元で、昨年同期比16.7%の成長率で、引き続きの高度成長を維持している。

飲食業：航空母艦型の大型店舗から個性型に転化

統計報告によると、航空母艦型の大型レストランへの投資ブームが収まり、ファッション系の小店舗に移りつつある。「艷陽天」の「艷陽小厨房」、「湖錦」の「賽江南」、「楚灶王」の「邦可」などのような格別な工夫がある店舗の内装、独特な味をもつ料理スタイル、雰囲気と上品さに凝る小店舗への投資が増えている。このような店は、ほとんどは4 - 6人利用の小卓で、ビジネス客をターゲットにし、鮮明な個性を持っている。

都市部飲食店の郊外開店ブーム

都市部の激しい競争から、発展空間を都市の外れと郊外区域、開発区のあたりに展開する傾向が顕著になっている。漢陽、東湖開発区の道路沿いに市内の有名飲食店のチェーン店が開設されている。「艷陽天」も郊外区の黄陂で数千万円を投資し、新店舗を開店することにしている。

2007年5月15日付け『長江日報』より

第1四半期の武漢不動産指数

第1四半期における江岸、江漢、武昌3区の平均販売価格が武漢市の上位3位を占め、新築物件の販売価格は江漢区4548.93元/m²、武昌区4430.05元/m²、江岸区4066.23元/m²。中古物件の販売価格は武昌区2864.23元/m²、江漢区2786.42元/m²、江岸区2689.74元/m²。この3区域は武漢市の中心都市部にあり、交通が便利で、不動産開発が活発であることから新築と中古ともに販売好調である。

2007年5月16日付け『楚天都市報』より

ビジネスホテルが開店ラッシュ

武漢はビジネスホテルの激戦区となりそうである。15日、国内ビジネスホテルのダークホースといわれる「セブンデー」チェーンホテルグループは年内に武漢で最低10店を開店すると発表した。

武漢をはじめとする地域拠点都市の経済の持続的な発展に伴い、ビジネスチャンスが増大していることで、ビジネスホテル各社の競争戦略地となっている。武漢市ビジネス型ホテルの建設は、年初以降の数が8割増えた。今後もビジネスホテルの建設はさらに加速する見込みである。

東風汽車集団：神龍汽車 08年生産能力は30万台

中国の三大自動車メーカーの一つである東風汽車集団股份有限公司[香港上場、東風記者集団（ドンフォンモーター）0489]傘下の神龍記者はこのほふお、武漢第1工場完成により2008年年産能力は30万台を突破するとの見通しを示した。これは香港の経済筋が伝えたものである。

09年初めに完成予定の武漢第2工場が操業を開始すれば、年産能力は40万台に拡大する。

中国石油化工：精製工場5か所を増改築へ

石油産大企業の一つであるシノペック系の中国石油化工股份有限公司[香港上場、中国石油化工（シノペックコーポ）0386]の陳革董事會秘書局主任は29日に開かれた株主総会で、武漢などにある精製工場5か所の増改築を行うと発表した。品質向上と生産コストの低減が狙い。これは香港の経済筋が伝えた。

精製工場5か所の平均年間処理能力は約500万トン。需要と処理能力をみて、それぞれの工場で増改築の規模を決める。

陳主任によると、同社の2007年第2四半期（4 - 6月）の業績は好調。第1四半期（1 - 3月）の伸びが大きかったこともあり、上半期（1 - 6月）は木彫日の達成が見込めるとした。

武漢中百：小会社2社に増資

中国情報局のニュースによると、武漢中百（深圳A000759）は、小会社2社に5億元（約79.54億円）弱を増資すると発表した。

同社は株主割当増資を実施し、約6705万株を割りあえる計画。資金調達額は最大46641.88万元（約74.2億円）、うち41049.57万元（約65.3億円）を小会社の武漢中百連鎖倉儲超市有限公司への増資に、5592.31万元（約8.9億円）を武漢中百便民超市連鎖有限公司への増資に充てる模様である。

鉄鋼業界情報

鉄鋼に関する市場調査などを行っているワールド・スチール・ダイナミクス（WSD）はこのほど、世界の鉄鋼メーカーの競争力ランキングを発表した。14日付で京華時報が伝えた。

第1位はセベルスタリ（ロシア）、第2位はポスコ（韓国）、第3位はアルセロール・ミタル（ルクセンブルク）だった。中国勢では宝鋼集団が06年から順位を1つ落として第4位で最高、このほか、鞍元鋼鉄が第12位、武漢鉄鋼が第20位、馬鋼集団が第22位、沙鋼集団が第23位だった。

武鋼戦略

5月17日付けの武漢晩報によると、武鋼が東湖開発区と協議を結び、四十八億元を投資、武鋼高新技术産業パークを建設する見込み。プロジェクトは敷地面積2000ムー（約147ha）を計画しており、1期投資は20億元に達し、来年の生産額は25億元に達する見込み。2010年の産業パーク完成後、年生産総値は60億元に達する見込みである。

武鋼集団総経理助理の顧力平氏によると、鉄鋼生産や研究開発部門は又武江本部二億としている。高新産業パークは主に工程技術、情報や自動化、技術サービス、環境保護、新素材や設備などの産業に力を入れることを明らかにした。

九宮山風力発電所今年8月発電始まる

武漢晩報によると、華中地方初めての風力発電所である九宮山風力発電所は5月16日に竣工式が行われ、第1期工程は今年8月に正式に発電を始めることを明らかにした。

紹介によると、九宮山風力発電所はすでに省政府から重点プロジェクトや省エネルギー代表プロジェクトに位置付けられており、海拔1560mという立地条件から、将来的にも風力資源は十分に得られるであろうといわれている。

武漢空港に外資系飲食業進出

武漢天河国際空港は建設中の第2ステーションが今年8月に竣工する見込みを発表した。空港責任者の話によると、このステーションの3階は、1万㎡を超える飲食、服、買い物、金融などの機能を備えた商業経営区域となる予定である。

飲食店は23軒が出店を予定、最大2000人が飲食サービスを受けられる

よう設計がされており、武漢名物武昌魚などの特産品を楽しむことができるほか、マクドナルドやケンタッキーフライドチキンといった外資企業も進出する予定となっており、飲食価格は大幅に引き下げられることが明らかになっている。

2007年5月21日付け『楚天都市報』より

武漢市に集中する工業産業

伝統的な製造業拠点である武漢市はこのほど『メイド・イン・ウーハン(武漢製造)』ブランドのブランド力向上を目的に専門家の提言をもとに「武漢市製造業発展計画大綱」を作成した。

大綱では、2010年度の重要な製造業種の工業総生産額の目標を2300億元としている。なお、2006年度の同生産額は1105億元であった。

現在、国の製造業の重点振興分野は16分野となっており、そのうち武漢市には8分野の製造業が立地している。

クリーン・ハイパワー発電ユニット、高付加価値船舶及び設備、大型環境保全設備、大型デジタル制御工作機械、冶金プラント設備等が対象となっており、大綱が実現すれば武漢市は中国で重要な設備製造拠点として新たな飛躍を遂げることとなる。

2007年5月23日付け『楚天金報』より

長江流域に98年相当の洪水発生の可能性

中国国家気象局、長江管理委員会、および水道局など関係部門の予測分析によると、今年、長江流域で大規模な洪水が発生する可能性が高く、この被害を防ぐことは困難であることがわかった。

調べによると、今年5月から10月にかけて、長江流域の降水量が例年より多くなることが予想され、さらに6月から8月の洪水発生期間には、長江中流区域の支流周辺の降水量が著しく増え、一部の区域で集中豪雨が発生する可能性があるという。

今年の気候は大洪水の発生した1998年と類似しており、これまでの洪水の発生条件を見ても、長江流域での大洪水の可能性は非常に高いといえる。

2007年5月25日付け『楚天都市報』より
外資系銀行、武漢で支店開設

先月、香港上海銀行、シティバンク、スタンダードチャータード銀行、東亜銀行の四行は、武漢での商工登録を済ませ、地元十インに人民元業務サービス提供資格を取得した。現在、各行は営業店舗の開設、および店舗増設の準備を進めている。

香港上海銀行は年内に武昌、漢口で各1支店を開設し、人民元業務を全面的に展開する予定。東亜銀行も武漢に国内最大規模の支店を開設する予定である。

東星航空：開業から1年、格安運賃で業績好調

格安運賃で知られる中国の民間航空会社「東星航空」(本社：湖北省武漢市)が5月19日開業から1年を迎えた。同社の公式サイトによると、過去1年間の業績は売上高2.81億元、純利益1137.35万元だったという、また利用客は延べ46.36万人、平均搭乗率は83.13%であった。同社はこれまでのところ武漢から上海、天津、重慶、広東省広州、陝西省西安などへ向かう16路線を運航している。

インテル：7億元投じ湖北省にWiMAX拠点

中国情報局のニュースによると、湖北省人民政府と米インテルが21日、「新世代ワイヤレスブロードバンド産業の発展協力」に関する協議に合意した。共同で湖北省武漢にワイヤレスブロードバンド産業拠点を建設する予定で、インテルはすでに7億元を投資しているという。

覚書によると、インテルが武漢市に産業拠点を建設するほか、艾維通信集団(arway)が武漢市を中心に全国16の省と市をカバーする運営プラットフォームを建設する。両社は武漢市と共同で湖北省のデジタル化を促進し、電子政府や産業の情報化などを推進することを目的としている。

インテルは以前、四川省成都市と山東省大連市でワイヤレスブロードバンドプロジェクトを準備していたものの、情報産業部との協力が思うように進まず断念した経緯をもつ。今回は湖北省政府が積極的に情報産業部に働き掛けたため、プロジェクトは順調に進んでいるというが、インテルの具体的な役割や応用分野などの詳細はまだ決まっていない。